

作成しました!

グリーンインフラ実践ガイド

グリーンインフラとは?

社会資本整備や土地利用等のハード・ソフト両面において、自然環境が有する多様な機能（生物の生息・生育の場の提供、良好な景観形成、気温上昇の抑制等）を活用し、持続可能で魅力ある国土づくりや地域づくりを進めることです。



グリーンインフラの取組を進める上で、大切なことは次の2つです。

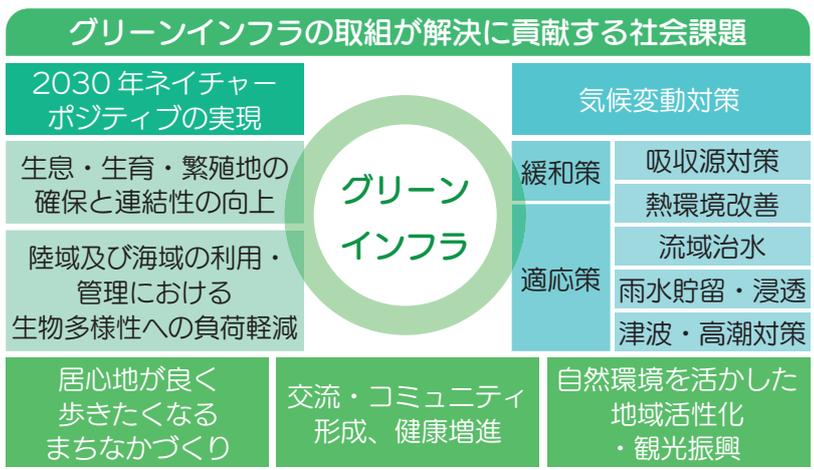
- ① 多様な社会課題の解決と目指す地域の姿の実現に向けて、自然環境を活用する知恵を絞ること。
- ② 関連する施策・事業に関わる様々な地域主体が協力し、官民連携・分野横断によって進めていくこと。

グリーンインフラで何を実現できる? どんな効果がある?

グリーンインフラの取組は、地域の様々な社会課題の解決に貢献します。

【期待される効果】

- 自然環境そのものを保全又は拡充する
- 社会資本整備等の効果を自然環境の働きによって拡充する
- 地域の魅力向上や人々の暮らしの豊かさ(Well-being)などに繋がる付加価値を生みだす



取組効果の例

グリーンインフラの取組を通じた自然環境の保全、緑の創出は、地域や経済にも様々な効果をもたらします。

Marunouchi Street Park 2020 (東京都千代田区)

【取組概要】
丸の内仲通りの一部を歩行者に24時間開放。天然芝の敷設、飲食店舗の屋外客席の増設等により、快適に過ごせる空間を創出。

効果	酷暑の改善	周辺経済の活性化
		屋外客席を拡大した飲食店舗では、取組前の前月に比べて 売上が増加 前月比 店舗 A: 売上 224% 店舗 B: 売上 119%

「コウノトリ野生復帰」をシンボルとした自然再生 (兵庫県豊岡市)

【取組概要】
コウノトリの野生復帰をめざし、湿地の再生、休耕田等を利用した水田ビオトープの整備、無農薬・減農薬の米栽培を実施。

効果	ブランド米の形成	交流人口・関係人口の増加
	生きものを育みながら生産されるコウノトリ育むお米は、ブランド米として高値で取引	再生した湿地、公園に学生、研究者、自治体関係者はもとよりバードウォッチャーなど、年間7,000~8,000人の人々が来訪

グリーンインフラ実践ガイドとは？

グリーンインフラ実践ガイドは、地方公共団体をはじめとする多様な地域主体に向け、グリーンインフラの基本的な考え方や主な取組、まちづくり、公園、道路、河川、港湾、海岸などの整備・管理などの場面での実践のポイントを解説するものです。

グリーンインフラにこれから
取り組もうとする方々に向けて



グリーンインフラって
なに？

どんな取組があるの？

I 基本編

グリーンインフラの取組・手法や、取組実践に当たっての基本的な考え方を解説します。

【具体的な取組・手法の例】

【各事業分野に共通する実践のポイント】



地域の将来ビジョンの明確化

連携・推進体制の構築

効果の可視化

柔軟な資金調達・官民連携

持続的な維持管理・マネジメント

社会資本整備・土地利用の検討
などに際して、取組を進めよう
とする方々に向けて



これから進める事業
の中で何ができる？

どんなことに注意が
必要？

II 実践編

社会資本整備・土地利用に関わる国土交通分野の事業が展開される空間に着目して、取組・手法を実践するためのポイントを豊富な事例をもとに解説します。



さらに詳しい情報を必要とする
方々へ



手法について、
もっと詳しく知りたい！

どんな支援制度を
活用できる？

III 資料編

「自然環境の活用」「官民連携・分野横断」に関わる各事業分野の参考資料、グリーンインフラの取組に活用可能な国等の支援制度、グリーンインフラ官民連携プラットフォームの取組など、実務に役立つ情報を提供します。